

◆2024年を振り返って。

「受注高、売上収益、営業利益、いずれも4期連続で過去最高を更新した。全事業で増収となっており、収益性も着実に向上してきている。内容的にもトルコの子会社・バンサンののれんの減損損失を計上したうえで、

◆…事業環境をどうみていますか。

「建築・産業については国内外ともに需要は堅

展望

2025
トップインタビュー

荏原製作所

浅見 正男 会長

(3月26日付で社長から取締役会長に就任)



拡大が見込まれる分野であり、研究開発投資も引き続き進めていく」

◆…水素関連では大型投資を決めました。

「液体水素ポンプの社会実装がスムーズに進むことを目的に水素関連製品の開発、液体水素ポンプの実液試験設備を完備した実スケール商用製品

試験・開発センターを立ち上げる。液体水素を用いた試験設備としては世界初となり、竣工は26年6月の予定で、一部設備は今年後半にも運用開始する。オフテイカーがい

ベルにある。インフラは国内の国土強靱化5カ年加速化対策により投資が堅調に続く見通しだ。環境は施設の延命化需要など安定的に推移している。精密・電子は半導体

関連の市場回復が遅れているが、当社は3%程度とみられる24年度の市場成長を上回る10%台を達成しており、25年度も市場成長を上回る成長を目指す。中長期的には市場

「中国経済は低迷しているといわれるが、当社は好調に推移している。建築需要は低調だが、産業分野やエネルギー、インフラ市場向け製品は受注も堅調で、半導体事

業も24年は設備投資が活発なことを受けて売上高は伸長している。中国の製造拠点では中国のインフラ、社会、生活を支える製品を作っており、そういう意味では景気にあ

記者視点

増収を実現する一方で選別受注とフロントローディングの実践によるリスク管理徹底、E B A R Aメンテナンスクラウドを活用したサービス提供、グローバル調達の加速、R O I C (投下資本利益率)経営の浸透など全社でコストの見え化を図りコスト低減を進めてきた。細田修吾執行役C F Oにバトンを渡したが、5期連続で過去最高業績更新、初の営業利益1000億円を目指す。

りも中国を除くグローバル市場の回復が遅れていることから精密・電子セグメントの3カ年の年平均成長率(CAGR)は目標値の15%に対して10・5%と下回る見通しだが、そのほかの財務数値は目標値以上を見込んでいる」

「計画策定時の想定よ (多賀恵子)

水素社会到来に万全期す

◆…中計最終年度です。

「計画策定時の想定よ (多賀恵子)